

厄介モノから地域資源へ、 アブラギリの取り組み



NPO法人 WACおばま
NPO法人 若狭くらしに水舎
中畠 阿児

プロフィール

中畠阿児（なかじま あこ） 昭和59年生

経歴／福井県小浜市出身。東京で貧困福祉分野の仕事に携わった後、20代半ばで地元に戻り。家業である国宝観光寺院の寺務に勤めながらボランティアベースで様々な地域活動を行っている。

地方の過疎課題に関心が強く、特に里山（自然環境との共生）の取組を主軸にしている。

NPO法人 WACおばま（中間支援型）／理事

NPO法人 若狭くらしに水舎（事業主体型）／代表理事

EPO中部 福井県協働コーディネーター

地域活動のきっかけ

地元（小浜市）で逸早く廃村に至った「上根来集落」との出会い



NPO法人 WACおばま

平成22年～中間支援団体のWACおばまで、上根来元住民団体「百里会」の地域保全活動をサポート。



NPO法人 若狭くらしに水舎

平成24年～再生可能資源について学び、実践を通して利活用の仕組みづくりを行う団体の創設から携わる。



アブラギリの取り組み

【ニホンアブラギリ】

トウダイグサ科の落葉高木。種子から「桐油」と呼ばれる油が採取できる。毒性のため食用には向かず、塗料などに用いられる。若狭地方では「コロビ」と呼ばれる。



アブラギリの歴史と現状

【桐油の昔の用途】

撥水塗料剤として有効

- ・ 雨傘
- ・ 雨合羽

その他では燈油。近代ではインク油、潤滑油など工業用油としても使用された。



アブラギリの歴史と現状

【桐之木は小浜第一の家業】

若狭でのアブラギリの栽培は承応2年（1653）、当時の小浜藩主、酒井忠勝の政策により作付けが始まる。

17世紀末頃には若狭地方のほとんどの村に“コロビ畑”という農地があったとされる。



アブラギリの歴史と現状

【1874年の全国桐油生産高】

第一位	福井県	6245石
第二位	島根県	1797石
第三位	兵庫県	856石

若狭の桐油は「若狭油」という代名詞が付くほど、全国一の生産量を誇っていた。



アブラギリの歴史と現状

【アブラギリの現状】

昭和半ば頃の“燃料革命”を機に国内の桐油産業は衰退。繁殖・成長力が高く野生化が進み、現代では生態の単一植生化などの環境問題的様相が見られる。若狭地方一帯にこの状況が広がっている。



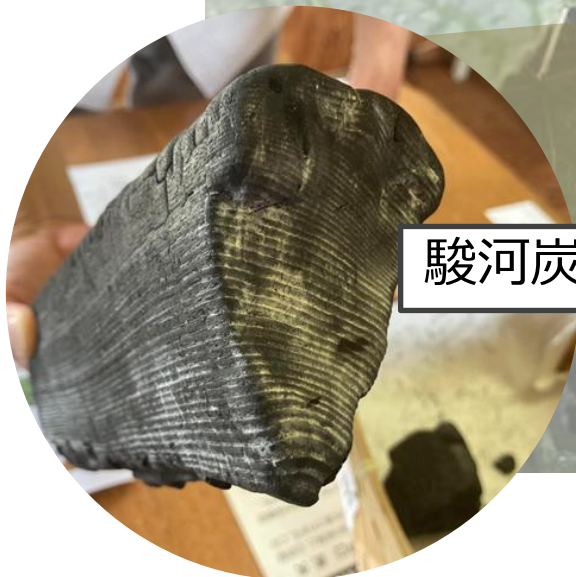
アブラギリの歴史と現状



越前葉寿司



若狭桐油



駿河炭 (研磨炭)



2011

2017

2023

上根来プロジェクト
アブラギリプロジェクト

若狭東高校

WACおばま

小浜市里山創造協議会

若狭くらしに水舎

小浜市

- ・小浜市里山創造計画
 - ・小浜市文化財保存活用計画
- アブラギリの活用が
小浜市の行政計画に明言化

若狭コロビプロジェクト

若狭くらしに水舎

Switch Switch

里山里海湖研究所

協力パートナー

若狭東高校

名田庄総合木炭

若狭コロビプロジェクト

現在、少量生産ではあるが「若狭桐油」として販売を始めて国産の桐油を復活させている。



【若狭桐油の事業化に向けた課題】

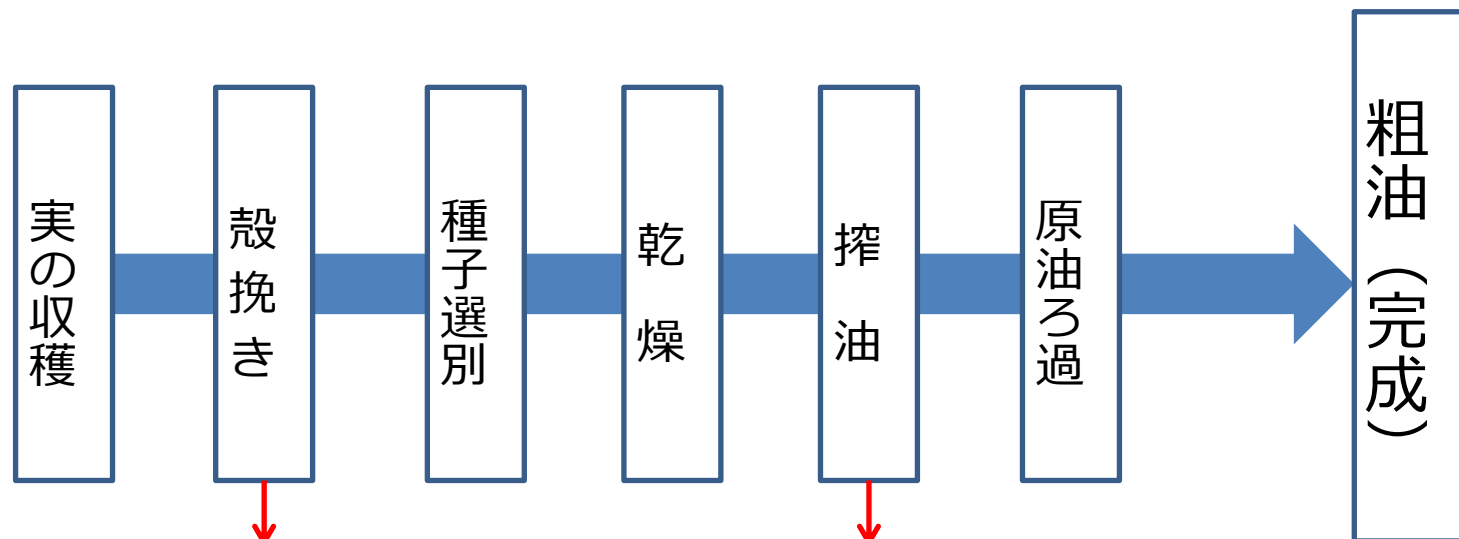
- ・生産技術の確立
- ・需要の掘り起こし（販路開拓）
- ・生産体制の仕組みづくり

生産技術の確立

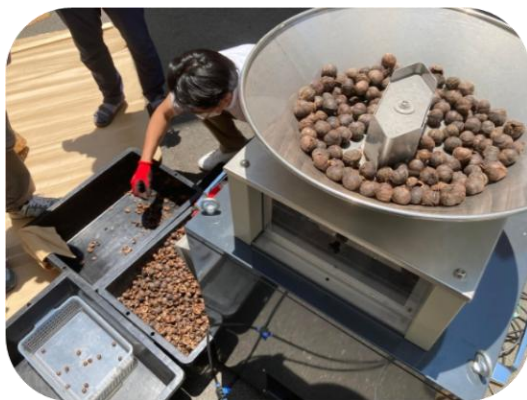
アブラギリ及び桐油産業は昭和で途絶えたため、近代化に伴う技術の進化がなかった。そのため、現代で桐油を再生産するには効率化を図り、アブラギリの規格に適応する生産技術を検証して作り直す必要がある。



生産技術の確立



2023 代用機適応確認



2018 搾油機適応確認



需要の掘り起こし

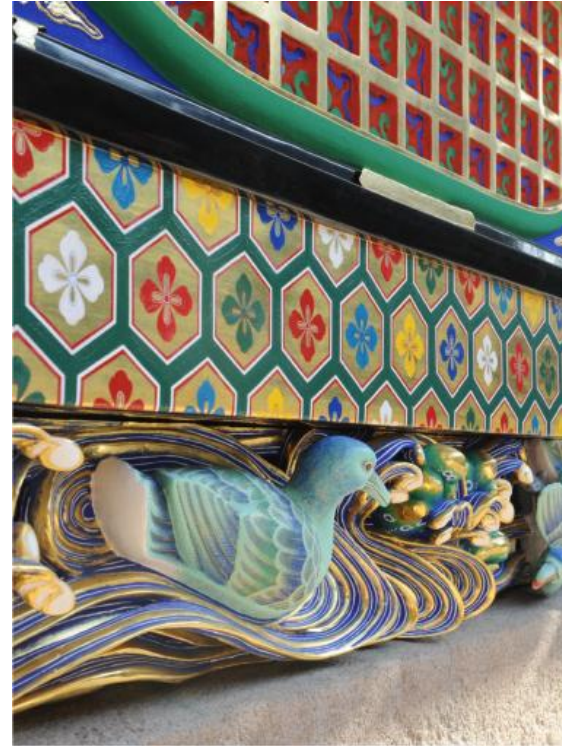
現在流通している桐油は輸入品（大半が中国産）であり、国産桐油の生産は確認されていない。中国産の原料はおそらく大陸種のオオアブラギリになり、厳密には異なる。全国トップの生産量であった若狭地方の最後の出荷記録は昭和40年代にあたり、国産の桐油は半世紀以上市場から失われていたと思われる。



需要の掘り起こし

【文化財修復分野】

再現性が重視される文化財修復保存分野においては厳格に使用する材料が定められているが、近年そのような材料のほとんどが海外からの輸入に依存していることが問題視され、材料の国産化の流れが強まっている。桐油は主に建築塗装（彩色技法）で使用されている。



⇒現在「日光社寺文化財保存会」と提携して適応試験中

需要の掘り起こし

【伝統工芸分野】

和傘制作においては、現在も伝統的に撥水塗料材として桐油が使用されており、岐阜和傘協会と連携して若狭桐油の使用を始めている。また、若狭の桐油と繋がった縁から、生産困難になっている和傘用和紙の和紙漉き職人として若狭和紙の職人を紹介して連携を行っていく取組も広がった。



